

## ビデオ鑑賞会資料

### 映画「ベニ・モレ物語」

#### *(El Benny)*

制作年：2006年、キューバ、スペイン、イタリア共同制作。

35ミリ、カラー。

長編劇映画。126分。

原語：スペイン語。

制作：オルガ・マリア・フェルナンデス(Olga María Fernández)

監督：ホルヘ・ルイス・サンチェス(Jorge Luis Sánchez)

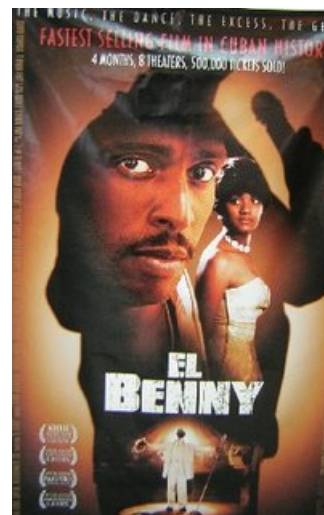
脚本：アブラハム・ロドリゲス、ホルヘ・ルイス・サンチェス  
(Abrahám Rodríguez y Jorge Luis Sánchez)

撮影：ホセ・マヌエル・リエラ(José Manuel Riera)

音楽：フアン・マヌエル・セリート(Juan Manuel Cerito)

音楽協力：チューチョ・バルデスとオリシャ(Chucho Valdés & Orishas)

助監督：フアン・カルロス・テジェス



#### 出演：

ベニ・モレ：レニ・アロサレーナ(Renny Arozarena)

オリンポ：エンリケ・モリーナ(Enrique Molina)

アンヘリウス：カルロス・エベル・フォンセカ(Carlos Ever Fonseca)

モチ：マリオ・ゲーラ(Mario Guerra)

アイダ：リマラー・メネーセス(Limara Meneses)

マギー：イサベル・サントス(Isabel Santos)

祖父：サルバドール・ウッド(Salvador Wood)

イレーネ：ルウラ・デ・ラ・ウス(Laura de la Uz)

ペドリート：キケ・キニョーネス(Kike Quiñones)

ドゥアニ：ウリク・アネーリョ(Ulyk Anello)

ベニの母：マイラ・マゾーラ(Mayra Mazorra)



#### あらまし

1940年、シエンフエゴス県の片田舎、ラハスからハバナに出てきた若きバルトロメは、自分のバンドを持ちたいと思っている。生活苦の妻は、まだ売れない歌手バルトロメを理解してくれない。そのようなある日、タクシー運転手の真面目一筋のオリンピオの車に乗り合わせる。オリンピオは、反政府派の地下活動家だった。

1945年、バルトロメは、人気絶頂のマタモロス・バンドに誘われてメキシコに行く。そこで、

「マンボの王様」ペレス・プラードと会い、その楽団で歌うかたわら、音楽も学ぶ。そして、名前をベニと改める。メキシコで歌手としての地位を固めたあと、1950年キューバに帰ってきたベニ・モレは、音楽とダンスを通じて、観衆を魅了するタレントであった。

金持ちの政治家アンヘリウスが、自分の選挙活動にベニのダンスを利用しようと、契約を提案してくる。しかし、バンド仲間のモチの裏切りで、ベニのジャズバンド結成の夢は失敗し、契約を履行することができない。ベニは、失敗に打ちひしがれ、アルコールとセックスにおぼれて、生活は荒れてしまう。しかし、いろいろな苦勞のすえ、ベニは、自分のバンド、「バンダ・ヒガンテ」を結成し、好評を博す。過去の復讐により、ベニは、ベネズエラで政治的争いに巻き込まれ、逮捕されるが、無罪となる。



ベニは、今や名声と金を手に入れ、ベニは、「あばら家が自然に倒壊するのを阻むものは死ぬ」という祖父の警告を忘れて、実家の古いあばら家を壊して新しい家を建てる。一方、オリンポの姪、アイダは、次第にベニに惹かれ、二人は愛し合うようになる。

過去の不摂生がたたって、ベニは、肝臓を患っており、死のふちに立たされる。医者は、ベニに禁酒を命じる。ベニは、医師の予想をくつがえして奇跡的に回復し、キャバレー、サロンに復帰する。ある夜、ダンスホールで、ベニは、健康が回復したと過信して、禁酒を破って酒を飲み、かつて夢で見たように、観衆の前で意識を失ってしまう。妄想の中で昇天したのであった。

### 監督 ホルヘ・ルイス・サンチェス (Jorge Luis Sánchez)

1960年ハバナに生まれる。映画クラブで映画活動を開始。その後、キューバ映画クラブ全国連盟を創設。

1981年からICAIC（キューバ芸術映画産業公社）で撮影助監督として働き始める。その後、映画助監督となる。

1988年、短編劇映画「友達」を監督。

1990年、ドキュメンタリー「孫と祖父」などを監督。

1992年、青年芸術家協会映画・ビデオ全国会議を組織し、全国議長となる。内外の映画祭に多数参加。また、映画製作、助監督作業について会議や講演を行う。

1997年、ドキュメンタリー「人生が過ぎていく」を監督。

1999年、ドキュメンタリー「オリシャ崇拜」を監督。

2006年、最初の長編劇映画ベニ物語を監督。



### ベニ・モレ(Benny Moré) 「リズムの神様」略歴

本名、バルトロメ・マキシミリアーノ・モレ。1919年8月24日、キューバのシエンフエゴス県のサンタ・イサベル・デ・ラス・ラハスに生まれる。兄弟は18人で、長男。幼少時、バルトロメ、あるいはバルトロと呼ばれた。長身で痩身であった。1963年2月19日ハバナで死去。

#### 祖先の歴史

19世紀、奴隷密貿易人により捕らえられたコンゴの部族酋長の息子グンドの子孫。グンドは、ラハスで大莊園主ラモン・パレーデスに売られ、タ・ラモン・グンド・パレーデスと呼ばれる。ベニ・モレの曾祖父に当たる。その後彼は、モレ伯爵に売られ、タ・ラモン・グンド・モレと呼ばれる。彼は、モレ伯爵の奴隷のフリヤ・モレとの間にフリヤという女兒をもうけ、グンドは解放され、解放奴隷と94歳まで生きる。フリヤ・モレは、キューバ独立解放軍の戦士、シメオン・アルメンテロス・イ・カルボとの間に6人の子供をもうける。父親は、子供を認知しなかったので、長女のパトリシアは、モレの姓を名乗る。彼女は、金持ちのスペイン人との間に4人の子供をもうける。末子のビルヒニア・セクンディーナは、父親が子を認知せず、モレの姓を名乗る。彼女は、18歳のとき、シルベストレ・グティエレスとの間に長男をもうける。彼が、バルトロメ（後のベニ・モレ）で、兄弟は18人となる。

## 活動略歴

**1919年** キューバを砂糖バブル襲う。バルトロメ、生まれる。バルトロメは、幼児の時から歌が好きで上手に歌った。

**1925年** マチャド独裁政権。母親によれば、6歳のとき、板切れに糸巻きの芯をしばってギターとして使ったという。弟のテオドロと農作業刀、鋏、釘、空き缶を楽器として歌った。

**1927年8月13日** フィデル・カストロ生まれる。

**1935年** バチスタ、大統領メーカーとして君臨。アントニオ・ギテラス指導のゼネスト。6歳のとき、音楽グループを結成するも、音楽については何も知らず、ギターを買ったが、弾き方も知らなかった。ハロス製糖工場でサトウキビ伐採労働者として働く。そこで友人からギターの弾き方を学ぶ。稼いだ金で、最初のギターを買う。

**1936年** バチスタの権力、強化される。バルトロメ、ハバナに移住する。古くなった野菜や果物と売って生計を立てる。6ヶ月でラス・ラハスに戻り、ハグアヤル製糖工場でサトウキビ伐採労働者として働く。しかし、マラリアにかかり、医者から仕事を変えるようにいわれて、音楽で生計を立てることを考える。

**1939年** キューバ労働者総連合結成される。バルトロメ、音楽グループ「アバンセ」でボーカルとして働く。その後、その内の二人とトリオを結成。

**1940年** バチスタ、大統領に選出される。一定の民主的な内容をもつ憲法制定される。バルトロメ、再びハバナに行き、4年間、バーや、喫茶店などでギターを弾き、歌って、厳しい生活を送る。中には客に迷惑をかけるなど、通りに彼を放り出すレストランもあったという。ラジオ局ののど自慢に参加し、うたい始めたとたん合格の鐘がなる。再度、参加したとき一番となる。デュエットやクアルテットを結成し、ラジオ「1010」に出たりする。バーで歌っているとき、当時人気のトリオ・マタモロスのシロ・ロドリゲスの目に留まる。ミゲル・マタモロスが声が出なくなっていたので、バルトロメは、マタモロスで歌うことになる。

**1945年** 前年、バチスタの「立憲独裁制」終わる。ラモン・グラウ・サン・マルティン大統領（キューバ革命党）就任。「組織的盗難の時代」開始。バルトロメ、メキシコに、マタモロス・グループと演奏旅行に行き、キャバレー「モンパルナス」、「リオ・ロサ」で歌う。いくつかのレコードを出す。メキシコでは、バルトロメが、ロバを意味したため、ベニ・モレを名乗るようになる。マタモロスが、キューバに帰った後も、バルトロメは、メキシコ人フアナ・ボカネグラと結



婚し、メキシコに留まる。リオ・ロサでラロ・モンタネとデュエットを組む。アメリカのレコード会社RCAビクターと契約しレコードをリリース。

**1948年** プリオ・ソカラス大統領（キューバ革命党）就任。政治腐敗続く。共産主義者に対する激しい弾圧。ベニは、メキシコでマンボの王様、ダマソ・ペレス・プラード（1916-1989、キューバ、マタンサス生まれ）と会う。ペレス・プラードは、1947年からメキシコに活動の拠点を移していた。ペレス・プラードから音楽についていろいろ学ぶとともに、彼と60以上のレコードを録音する。映画にも数本出演する。ペレス・プラードとパナマに演奏旅行する。



**1950年** キューバでTV放送開始。ベニ、キューバに帰国。メキシコ、パナマ、コロンビアではスターであったが、キューバではほとんど知られていなかった。ボニート・イ・サブローソで名声を博すようになり、当時、「マンボの神様」と呼ばれる。やがてハバナのRHCラジオで、リズム「バタンガ」を歌う。司会者が「リズムの神様」と彼を呼ぶ。バタンガが失敗し、エルネスト・ドゥアルテ楽団とラジオ・プログレッシブに出演。ダンス会場、キャバレー、パーティーなどで歌う。

**1951年** エドゥアルド・チバス（オルトドクソ党）、ラジオCMQで放送中に、「キューバ国民よ、目を覚ませ」と警告して自殺。

**1952年 3月 13日** バチスタ、オルトドクソ党の大統領選での勝利を恐れ、アメリカの支持を受けて、クーデターで政権を掌握。ベニ、シエンフエゴス出身の無名のオルケスタ・アラゴンを助け、一緒に録音。ドゥアルテがベニを嫉妬して週末に起用しなくなるのを知って、彼と決裂し、ベニは自分の楽団を夢見る。

**1953年 7月 26日** フィデル・カストロ以下、153名の青年たち、バチスタ独裁に抗議して、「モンカダ・バヤモ兵営」を襲撃。失敗し、ピノス島に収監される。8月、ベニの楽団「バンダ・ヒガンテ・デ・ベニ・モレ」、ラジオ「CMQ」でデビューする。

**1955年 5月** カストロたち、恩赦で釈放される。

**1956年 12月** カストロたち82名、メキシコから、オリエンテに上陸、シエラマエストラで反バチスタ闘争、「7・26運動」を開始。56-57年、ベニ、楽団とともに、ベネズエラ、ジャマイカ、ハイチ、コロンビア、パナマ、メキシコ、アメリカで演奏。国際的に名声を確立する。



**1959年 1月 1日** バチスタ国外に逃亡、7・26運動勝利し、独裁制終わる。

ベニ、7・26運動により組織されたいろいろな文化活動に参加。

**1961年 4月 17日** アメリカの傭兵、プラヤヒロンに侵攻、キューバ国民に撃退される。1961年、識字運動が展開され、ベニ、フィデルから識字運動参加者のためバラデロで毎週木曜に歌うように依頼され、無料で出演する。

**1962年 10月** キューバ・ミサイル危機勃発。ベニ、国内の演奏活動に積極的に参加。

**1963年 2月 16-17日** ベニ、パルミラでショーに出演、ハバナへの帰路、咯血。18日入院。2月19日、ハバナで死去。享年44歳。

彼は、その死のなかで蘇り、キューバ全国が涙でぬれた人物が死ぬことはない。その声は、かつてなく響き渡り、毎日われわれの空で止まることも消えることもない。

—ニコラス・ギジェン—